

新生児早発型GBS感染症の発症要因の検討

脇本寛子¹⁾, 矢野久子¹⁾, 佐藤剛²⁾, 安岡砂織³⁾, 長谷川忠男⁴⁾

1) 名古屋市立大学看護学部

3) 東邦大学看護学部

2) 同大学院医学研究科産科婦人科学

4) 同大学院医学研究科細菌学

背景

- ・GBSは、新生児敗血症/髄膜炎の起炎菌の約25%
- ・GBS感染症の発症率は、0.1~0.51(出生千対, 日本)
- ・死亡・後遺症を残すのが約20%
- ・早発型GBS感染症の予防法
 - ・米国CDC(2002,2010) 妊娠35-37週
 - ・日本産婦人科学会(2008,2011) 妊娠33-37週
 - ・全妊婦 膣・肛門 GBSスクリーニング
 - ・分娩時 抗菌薬予防投与(静脈注射, ABPC)
 - ・発症率は低下傾向

目的

近年の早発型GBS感染症を
発症した児および母について後方視
的に検討し、どのような児が発症して
いるのか発症要因を明らかにする

用語の定義

・GBSスクリーニング

妊娠中に膣分泌物などを細菌培養して、
GBSを保菌しているか調べること

・早発型GBS感染症：血液・髄液からGBSが検出された 日齢0～6の新生児

・危険因子：妊娠37週未満の分娩

分娩中の38度以上の発熱

破水後18時間以上経過した分娩（米国CDC）

・GBS感染症発症率：発生数/出生数 × 1,000

発生数：新生児搬送例を除外

出生数：母体搬送例を除外

対象

- 2007年1月～2011年12月
- 3施設（東海地区）
- **早発型GBS感染症を発症した児とその母**

方法

- ・ **情報収集**: 後方視的に診療録から

- ・ 母児の属性
- ・ 妊娠分娩経過(発熱, 破水)
- ・ GBSスクリーニングの実施状況
- ・ 抗菌薬予防投与
- ・ 児の発症状況

- ・ **倫理**

本学看護学部研究倫理委員会と各施設長の承認を得た。
個人・施設などの情報は匿名化し, 厳重に管理。

GBS感染症の発症例数と発症率

- ・ **早発型GBS感染症数 9例** 院内出生 4例 新生児搬送 5例
- ・ **GBS感染症発症率 0.28** ($4 / 14,329 \times 1,000$)

発症率: 発症数/出生数 $\times 1,000$

発症数: 院内出生のみ(新生児搬送例は除外)

出生数: 母体搬送例を除外

GBS感染症発症児と母の属性 (n=9)

項目		
在胎週数(週)	38週6日 ± 2週2日	(33週2日 ~ 41週1日)
出生体重(g)	3,040 ± 669	(1,800 ~ 4,270)
Apgar score(1分値)	7.2 ± 2.3	(3 ~ 10)

年齢(歳)	31.7 ± 3.6	(29 ~ 38)
-------	------------	-------------

分娩歴	初産婦	2名
-----	-----	----

	経産婦	7名
--	-----	----

分娩様式	経膈分娩	6名
------	------	----

	帝王切開	3名 (常位胎盤早期剥離 2名, 横位 1名)
--	------	--------------------------

注) 平均 ± 標準偏差 (範囲)

GBS感染症発症児の母の危険因子とGBS予防対策(n=9)

項目	n	
危険因子	妊娠37週未満の分娩	1(妊娠33週)
	分娩中の38度以上の発熱	0
	破水後18時間以上経過した分娩	0
GBS 予防対策	妊娠中のスクリーニングの実施	9
	妊娠34週6日以前	2(妊娠22,24週)
	妊娠35週0日以降	7
結果		
陽性	3	
治療後陰性	2	
陰性	4	
分娩中の抗菌薬予防投与	4	

GBSスクリーニングの結果と抗菌薬投与 (n=9)

GBS スクリーニング	n	分娩中の抗菌薬予防投与	
		あり	なし
陽性	3	2(帝王切開)	1(急速な分娩進行)
治療後陰性	2	1(帝王切開)	1
陰性	4	1(前期破水)	3
合計	9	4	5

GBS感染症発症児の発症状況と生命予後(n=9)

項目		n
発症時期	日齢0	8 (出生直後 6, 生後2時間 1, 生後3時間 1)
	日齢1	0
	日齢2	1 (髄膜炎症例)
初発症状	呼吸障害	9 (仮死 4, 呻吟 3, 多呼吸 3, 鼻翼呼吸 2, 無呼吸 1, 陥没呼吸 1)
	発熱	0
	痙攣	0
診断名	敗血症	9
	髄膜炎	1 (敗血症と重複)
生命予後	生存 後遺症なし	7
	生存 後遺症あり	1
	死亡	1 (日齢 4)

まとめ

- 早発型9例(発症率0.28/1,000)であった.
- GBS発症の危険因子を有していたのは, 1例(早産, 33週)のみであった.
- GBSスクリーニング陰性 4例, 治療後陰性 2例であり, 分娩時に陰性であったのは合計 6例であり, **偽陰性に関する取り組み**が今後の検討課題と考えられた.